

平成 23 年度

事業所名 : グループホーム 綾姫

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370300311		
法人名	医療法人 勝久会		
事業所名	グループホーム 綾姫		
所在地	岩手県大船渡市三陸町綾里字清水67		
自己評価作成日	平成23年10月30日	評価結果市町村受理日	平成 24年 2月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370300311&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成23年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りには海、山、田んぼがあり自然豊かな環境に囲まれた地域に事業所が位置しており、ホームを出れば散歩道もあり、天気の良い日には、利用者様が外に出やすい環境にある。同法人が行っている1階にあるデイサービスとの交流もあり、入浴に関しても大きい入浴場を借りて温泉気分を味わうことができる。ご近所から、畑で採れた野菜を頂いたり交流もある。入居者様のペースに合わせ、生き生きと生活できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、既存の建物を改修した2階建ての2階にあり、1階は同法人の運営するデイサービスとなっている。隣接して民家、近くには小中学校や保育園、診療所があり、豊かな自然環境に囲まれている。理念の「共に笑顔で、本人のペースを大事に、優しいケアを提供します」をホールや廊下の誰でも見える場所に掲示し、管理者は出勤時に口頭で質問するなど職員の理念に対する意識が深まり支援に活かされつつある。会話では笑い声も聞かれゆったりとした雰囲気の中で利用者の表情も明るく、掃除、食事での片付けなどを発揮し役割を担えるよう努めている。管理者と職員は、常に利用者の個性や趣味の把握に努め、ケアプランで試みながらその人のペースで参加したり行動できるよう工夫し、安心して楽しく暮らせるよう支援に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 23 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 綾姫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、理念を出勤者に聞き口頭で答えてもらい業務に入るようにしている。覚えることで理念を共有するようになった。	「共に笑顔で、本人のペースを大事に、優しいケアを提供します」という理念を、ロビーなど見やすい場所に掲示するとともに所長が出勤時に、口頭で職員に問いかけ、全職員で意識しながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小、中学校から行事のお誘いがあり参加している。昨年度から回覧板を近所にまわし、野菜を頂いたり、交流の機会が増えてきている。	地区の津波訓練や草刈、大掃除に参加し地域の一員として役割を担い、小中学校の運動会などに参加し積極的に交流を深めている。また「綾姫」だよりを公的機関や近隣に配布しホームの理解に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校から職場体験学習に参加したり地域サロンに職員が出向き、交流の場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動状況を毎回報告している。昨年度より消防署にも参加して頂き、防災、災害について話を聞く機会も増え、今後は心肺蘇生法の講習会を開催する予定である。	2ヶ月に1回開催し利用者の身体状況や活動の状況を報告しているが、最近の会議では、震災の経験から災害時の避難方法・場所選定、飲料水の確保など課題が多く、意見を聞いて検討し運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市で行われている月1回の事業所連絡会に参加し、当事業所の状況を報告している。運営推進会議にも参加していただき、状況を話す機会になっている。	「綾姫」だよりを持参し実情を報告したり、介護認定などの手続きを相談したり、市主催のケア会議に参加し他施設との情報交換をしたりして積極的に連携をとり協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2階建ての2階部分がホームという環境にあることからホームの出入り口には「抑制」という意味ではなく階段での転落防止の為に施錠している場所がある。法人内の研修、委員会に参加し、他職員へ会議等で伝える内容を把握してもらっている。	外部や内部の研修を通じて身体拘束をしないケアを理解し取り組んでいる。ホームは建物の2階で階段が急なため危険防止に施錠、個別対応で開錠し職員が同行しており、日常の外出や散歩はエレベーターを利用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体施設等で開催される研修会や委員会活動に参加し、職員全員で虐待防止に努めている。マニュアルを掲示し、いつでも対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、当ホームでも権利擁護を利用されていた方がおられた。利用者やご家族の環境やニーズに応じ、相談や支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の説明時に十分に時間をかけて、理解して頂けるよう努めている。利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応等、詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に投書箱を設置している。家族面会時には、利用者の様子を伝えたり、気軽に話が出来そうな環境作り心がけ、ケアプランのサインをもらう際に要望を聞き反映させている。	面会や受診の際に意見や要望を聞いたり、お便りで家族に報告したり、パソコンで連絡しあったりし工夫し機会をつくっている。「居室が寒いので絨毯を敷いてほしい」との要望があり即座に改善し運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議により、話しやすい環境作り意見をしやすいようにしている。人事制度があり、年2回面談があり、職員の意見を聞く機会が充実されている。	毎月、第4火曜日の会議に機会をつくっているが、いつでも話を聞く雰囲気づくりをしており、管理者と職員のコミュニケーションは良く「職員は仕事着のまま帰宅しないこと」などの意見があり全職員で検討し業務に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるために、個人の目標を設定し、達成された時には、昇給、賞与の支給額に反映される仕組みになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の向上を図り、法人内外の研修にできる限り参加するようにしている。新人研修、リスクマネジメントなど充実した内容になっている。月1回の会議でも勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム主催の会議や研修に参加し勉強会や他ホームとの情報交換、交流しながら、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前ケアマネからの情報だけでなく、本人に会い実態調査を行い、本人の不安、要望を出来る限り把握できるよう努めている。他の職員にも伝達し、安心してサービスを利用できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査を実施し、家族とよく話をすることにより、家族が不安や要望を気軽に相談できる環境の提供に努めている。面会に来られない家族へは手紙やパソコンのメールを使用し関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの特徴を説明した上で本人、家族に必要と思われるサービスについても説明させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物や掃除などの日常生活で行われる家事を共に行うことにより、共に生活しているという意識を持てるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にホームでの様子を伝えるだけでなく、行事などへ家族も招待し、本人、家族、職員共に過ごす機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、状況報告を行っている。 なかなか面会に来られない遠方の家族には3ヶ月に1度、近況の報告の手紙や写真を送らせて頂き、疎遠にならないよう努めている。	茶飲み友達や、昔一緒に働いた人が遊びに来ることがある。また、家族の協力を得て墓参りを継続し、さらに、理美容はホームに来てもらい、食材の買い物や散歩で挨拶を交わし新しく馴染み関係を築くよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に掃除、茶碗拭きなどすることにより、利用者同士の関わりも以前に比べみられている。体調不良の方を気遣う様子もみられ、なかには食事介助する利用者もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在もホームに野菜を持ってきて下さり交流が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族とのコミュニケーションの中から希望や意向などを把握するよう努めている。一緒に生活するなかで、より良いケアの仕方を探っている。	行事や日ごろの散歩、買い物時の話題、食事の時に美味しいとか、入浴での気持ちがいとかの会話などから本人の思いを把握し、家族からは昔の経験したことを聞いて試みながら個別に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族との会話から、情報収集を行っているが不足な部分もある。アセスメントをしっかりし、良いケアに繋げていきたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活での変化を見逃さないように心身状態、有する能力等の把握に努め、その情報を記録に残し、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今出来ることを、少しでも継続できるようプランへ取り入れている。また、家族の希望も反映できるように希望の確認をし、サインをもらっている。	担当者が本人の視点に立って原案を作り、ケアシートやケア記録を参考に職員が意見を出し合いカンファレンスで検討、家族や関係者からの意見も柔軟に反映して、ケアマネジャーが最終判断をし作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画に基づいたケアを実践し、記録に残し、ケア報告連絡相談シートを使い実践に繋げている。ささいなことでも記録に残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ADLの低下、状態の変化の際には家族と相談し、状況に応じた他事業所の説明をし、必要となれば、その事業所に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の移動図書館を利用している。消防署、保育園、小学校へホーム便りを配り、入居者が住み慣れた地域で暮らせるような状況を把握して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医を受診している。家族がつき添える場合は、口頭や文書にして手渡し、主治医に話して頂いている。	家族が同行することを原則とし、医療の経過を記載した「受診連絡表」を渡して受診するようにしている。家族の都合によっては職員が同行することもあるが、医療との関係を築きながら受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、兼務看護師が訪れ、健康指導を行っている。個人の申し送り用紙を活用し、情報の共有に努めている。状態変化時は相談、助言の対応が24時間可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が何度もお見舞いに行き、家族や病院関係者から情報を聞き、状態把握に努め、退院後もスムーズに生活できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態変化を家族に説明している。重度化、終末期にはできるだけ本人や家族の意向を尊重し納得いくように対応していきたい。今後に向けて勉強会に参加し、終末期を安心して迎えられるよう支援していきたい。	同法人系列の老人保健施設で開催する看取り委員会の研修会に参加し研鑽している。利用契約の際に家族には状態が重度化した場合は、ホームとして看取りはできないが、早い段階で相談しながら、希望に応えられるよう老健や病院などと連携し支援している。	ホームは、開所当時から利用者もいることから、いずれは重度化、終末期の対応が必要となる。事業所で出来る事、看護師、医療機関との連携など、方針を共有することに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護との定期的なミーティングを行い、様々な急変に備えてマニュアルを作成している。ホームでも緊急時に備え勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	東日本大震災後より、訓練の回数を増やして行っている。地元職員がかけつける夜間召集訓練、モバイル通信など利用し災害に備えている。訓練には地域の方の参加もある。	消防署立会いの避難訓練、地域の津波訓練に参加、毎月11日を災害の日として訓練を実施し安全に避難できるよう意識づくりをしている。また、建物に災害の発生を知らせるベルを取り付け近隣に周知している。	現状の課題として、目標達成計画で地域住民の体制づくりに取り組んでいることから、今後、住民の参加を得て避難訓練が実施されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの意思を尊重し、言葉使いに注意して対応している。	トイレ誘導や入浴の支援に当たっては羞恥心に配慮し、人生の先輩として言葉掛けをしている。また、利用者の個性に合わせて方言で会話をすることもありますが、自尊心を損ねないように対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、本人の希望を伺う為、できるだけ個人の意思を尊重するように心がけている。本人の思いを表せるような場面を作り決定して頂いている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大切にしている。外出希望のある利用者には、散歩、買い物等に声かけを行い、柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の付き添いが困難な事が多い為、現在は美容師の方に来て頂きホームで散髪して頂いている。入浴時、外出時等、利用者本人に着たい服を選んで頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の好みに合わせたり旬の食材を使用する等工夫している。利用者の家族やホーム近所から頂いた食材も使用し提供している。盛り付け、片づけは毎日一緒に行っている。	季節のものを取り入れながら、利用者の好みに合う食事づくりを心がけている。下膳、茶わん拭き、後片付け等利用者の能力を発揮してもらっている。職員も一緒にテーブルを囲み話をしながら、落ち着いてゆっくり食べられるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内管理栄養士に、栄養指導して頂きバランスのとれた食事の提供、専門的な観点からチェックやアドバイスを頂いている。食事、水分の摂取量を記録し毎日の摂取量を把握している。また、ロミ剤の使用や、エンシュアで栄養補給している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合わせた方法で口腔ケアを行って頂いている。週に1度、義歯の消毒を行っている。口腔ケアを行ったかチェック用紙に記入している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、排泄パターンの把握に努め、声がけにてトイレへの誘導を行っている。尿便意、曖昧な方には、トイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を作成し、利用者の表情や様子、時間を見て声がけしたりしてトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックを行い、水分摂取量の低下を防止している。管理栄養士から指導を受け繊維の多い食材を取り入れた献立を工夫している。余暇時間には体操を行い体を動かすことでより排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1階のデイサービスの入浴場を借りて行い、広々としており温泉気分を味わい楽しまれている。希望があればホームの家庭浴を利用することもあり、同性介助を望む方には入浴日をずらすなど配慮している。	週2回としているが家庭浴で狭いため、景色の眺められるデイサービスのお風呂に希望が多く、時間帯を調整しながら羞恥心に配慮し満足感が得られるよう支援している。また、受診や外泊の前日は入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を観察し、疲れや異変が見られる利用者様には休息してもらうよう促している。夜間、良眠するため、出来る限り日中活動的に過ごして頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の準備は職員が行い、服用の確認、チェックを行っている。職員が薬の内容を把握できるよう努めている。服薬時はチェック表を用い服薬介助にて誤薬や飲み忘れを防止している。そのひとつとして薬の一包化を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	みんなと一緒に楽しめるもの、一人で楽しみたいもの、それぞれに合わせた支援をしている。一人一人の役割を自然に行えるよう声掛けを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方にも協力して頂き、外出の機会を作り、なかには自宅に外泊する方もおられる。ドライブに出かけたり、地域のお祭りを観に行ったりと気分転換を図っている。	建物周辺の散歩や食材の買い物、保育園などの地区行事への参加、花見や紅葉などの季節行事は希望を聞いてドライブに、また、家族の協力を得て外泊や墓参りにと外出の機会をつくり支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で所持されている方と、ホームで預かっている方がおられる。欲しいものがある場合は一緒に出掛け購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に本人が電話をできるように支援している。家族から電話があった際にはとりつぎ、コミュニケーションの場を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	水木団子や七夕等を作り季節行事を通じて季節感を出す工夫をしている。廊下には四季を通じての活動写真を掲示している。	台所と食堂兼ホールは隣り合わせで生活感があり、一角には畳を敷き炬燵とテレビを配置しつろげるスペースとなっている。壁には行事などの写真を掲示、ミズキ団子や七夕飾りで季節感を取り入れ楽しく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごす利用者様が多いが、ソファを置いた畳スペースを設けている。利用者同士が思い思いに過ごせるような居場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様になじみの物を運んで頂けるようその旨をご家族に説明している。その方の習慣を変えることなく安心して過ごして頂けるよう居室作りに配慮している。	暖房機とベッドはホームで備え付け、タンス、テレビなどを持参、写真や鉢花で思い思いに飾り安心して暮せるよう工夫している。また、職員と一緒に掃除をし清潔の保持と健康管理に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が自分の居室がわかるように、近所から頂いた木材を利用して表札を掲示したり、高さを変え見やすいように表示したり、混乱時はその原因に合わせた対応を検討し、環境を整えるようにしている。		